

取締役会議長メッセージ

持続的成長に寄与する多様かつ独立性を担保した取締役会

電通グループでは、社会、顧客企業ならびに株主の皆さま、そして従業員にとっての企業価値を持続的に創出できるよう努めています。そのために、迅速な意思決定、責任ある経営資源の配分、透明性の高い事業運営によるガバナンスの強化を目指しています。2022年度は、その目標に向けて更なる一歩を踏みだしました。

五十嵐博を新たな電通グループの代表取締役社長CEOに任命すると同時に、CEOと取締役会議長の権限を異なる人物が担うことになりました。中立性、サポート機能、長期的展望を求められる取締役会の独立性を強化する一方、業務執行を担う役員は事業運営と事業戦略の遂行により注力できる体制を整えました。そして、私は非業務執行取締役として初めて取締役会議長を拝命し、身の引き締まる思いです。電通で10年以上にわたって業務執行取締役を務めた経験で培った、事業に対する深い理解をベースに、五十嵐CEOをリーダーとする新たな業務執行チームの経営をサポートすると同時に、業務執行には関与しない独立した立場で職責を全うしていく所存です。

また、この度新たに4名の社外取締役に迎えたことをご報告いたします。この10余年の間にも電通グループは正真正銘のグローバルカンパニーへと発展し、成長を続け

る事業と同様、経営陣にも取締役会にも多様性が求められるようになりました。新しい取締役会は、企業経営経験、多様性、国際性のいずれにおいても過去最高の布陣であると自負しております。今回迎えた社外取締役は、過去にグローバルグループ企業において、業務運営、取締役会の両方で豊富な経験を有する、グローバル経営、デジタル、財務、会計、監査のエキスパートたちです。私たちを取り巻く状況が刻々と変化し続ける中、取締役各々が、事業やそれを取り巻く環境、競合他社について広範な知見を有することが電通グループの成功にとって不可欠です。新たな社外取締役がそれぞれの分野の知見を活かし、連携し、取締役会に貢献してくれるものと確信しています。

私たちがこれまで長い年月をかけて築いてきた、他社の追随を許さない強みを存分に活かし、また時には変化に柔軟に対応し、方向を転換できる卓越した経営体制がスタートしました。電通グループは2021年度に既に成長軌道への回帰を果たしました。私は、経営陣が、2024年に向けた中期経営計画を達成すると信じています。それと同時に、取締役会は一丸となり、全てのステークホルダーにとって意義のある事業の持続的な成長に向けた道筋を示しサポートしていきたいと考えています。



(株)電通グループ 取締役会議長・非業務執行取締役
ティム・アンドレー